

## 歴史探訪 Part II - ②⑤

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水 太郎

山手線の新駅(田町 品川の間、リニア新幹線の始発駅、地下90mに建設中)の名称が「高輪ゲートウェイ」と決まりました。

「お江戸日本橋七つ立ち」で始まる古謡では、東海道は日本橋を午前4時にスタートした旅人が、品川宿にさしかかると、6時頃に明るくなって提灯の火を消すと大木戸が開く様子を詠っており、未来へ向かって走るリニア新幹線の完成が私達に明るい希望を与えてくれます。日本橋に青空を取り戻し、2020五輪、大阪万博へと希望と夢の実現はまだまだ続きます。

今回は2年間学んだ勉強から、復習をかねて歴史探訪します。

最近のニュースで、大阪府にある仁徳天皇陵の調査が始まりました。仁徳天皇は、『古事記』・『日本書紀』によりますと、神武天皇以来、18代目の天皇として記録されております。(10代 崇神天皇は実在したと思われる最古の天皇)仁徳天皇は神話の中でのみ18代天皇として知られております。天皇陵は宮内庁の管轄で、誰もが立ち入って調査することは叶いませんでしたが、この度、日本最大(全長486m)の前方後円墳で、エジプトのピラミッドより面積が大きい世界一の規模であることで宮内庁と折り合いが付き、調査が許されることになりました。今後、女王卑弥呼の謎(奈良・<sup>まきむく</sup>纏向遺跡が卑弥呼の居館跡ではという説もある)も解けるのではと期待されます。女王卑弥呼は突然の日食で魔力の所持を疑われ、邪馬台国と運命を共にして滅亡したと推量されています。北九州から大和地方にかけて3世紀の半ばに日食が起きた年月日を特定することが出来ますが、卑弥呼の死と合致するという説、もう一つは、天照大神が天の岩戸に隠れた契機が日食であったと推量し女王卑弥呼と天照大神は同一人物とする説もあります。

源頼朝の異母弟の義経は、頼朝の意向により、藤原泰衡に攻め立てられ平泉衣川の館で自刃しました。ところが、実は、北へ逃れて北海道から大陸へ渡りジンギスカン(チンギス・ハーン)になったとの説もあります。青森県の三厩から蝦夷(北海道)へ渡ったという石碑が発見されました。これはペリーが来航する50年以上前の寛政期(1789~1800)、ロシアのラクスマンが来航したり、1846年、ビートル艦隊が来て国交を要求したことから、国防上、義経が蝦夷へ渡って、その一党が支配したという仮説を立て、流布したことが、江戸時代の旅行家・菅江真澄、幕末期の松浦武四郎によって確認されております。



建設中の高輪ゲートウェイ駅  
出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>